時事新報

驛遞局認可

明治十八年三月廿四日
（西暦一千八百八十五年）
火曜日

第九百二十四號
日曜日休刊

時事新報定價（日曜日バカリ休刊）

一枚金三錢○一箇月前金六十五錢○三箇月前金一圓八十錢○六箇月前金三圓四十錢○一箇年前金六圓五十錢○東京十五區内並ニ横濱區内ニ限リ配達無賃○前記東京横濱ヲ除クノ外日本國内並ニ海外郵便締約國（歐洲諸國等）ヘ御送ノ郵便税ハ一箇月金廿六錢一箇年金三圓十二錢ノ割ヲ以テ前金ニテ申請候事

時事新報廣告料（前金）

○二日以上六日間以内一行ヨリ十行迄一行ニ付一日分金八錢、十一行ヨリ三十行迄一行ニ付一日分金七錢、三十一行ヨリ五十行迄一行ニ付一日分金六錢五厘、五十一行以上何行ニテモ一行ニ付一日分金六錢、但シ六日間以上掲載ノ分ハ定則一割引、十五日間以上同斷同一割五歩引、三十日間以上同斷同二割引

○一日限廣告一行ヨリ十行迄一行ニ付一日分金十錢、十一行ヨリ三十行迄同金九錢、三十一行ヨリ五十行迄同金八錢、五十一行以上同金七錢（注意）本社廣告料一日限リ掲載ノ分改正シ三月一日ヨリ右ノ通計算致候但二日間以上掲載ノ分ハ從前ト少シモ異ナルコナシ

公報

東京圖書館

府　縣

○内務省達甲第六號

戸長所有之地所建物船舶等ヲ質入書入及ヒ賣買セントスルトキハ其次席ノモノ無之トキハ隣町村戸長ヲシテ公證爲取扱來候處自今戸長ニ於テ成規ノ公證ナシ郡區長（戸長役場ヲ兼ヌル區役所ハ府知事縣令）之檢閲ヲ爲受候様可致此旨相達候事

但檢閲之證トシテ公證帳簿ト證書トニ郡區役所之割印ヲナスヘシ

明治十八年三月廿三日　内務卿伯爵山縣有朋

府　縣

○内務省達甲第七號

入歯抜歯口中療治接骨等營業之者ハ明治十六年十月第三十四號布達ニ據リ醫術開業試驗ヲ經ルニ非サレハ新規開業不相成候條從來之營業者ハ此際各地方廳ニ於テ鑑札ヲ付與シ相當之取締法相立可申此旨相達候事

但既ニ取締法相設居候向ハ更ニ本文之手續ヲ爲スニ及ハス

明治十八年三月二十三日　内務卿伯爵山縣有朋

時事新報

朝鮮ノ近狀

明治十五年朝鮮ニ大院君ノ乱アリ暴兵暴民來リテ日本公使館ヲ襲ヒ非常ノ損害ト侮辱トヲ加ヘタルヲ以テ日本政府ハ朝鮮政府ト新タニ條約ヲ結ビテ公使館護衛ノ爲メ一隊ノ兵ヲ京城内ニ屯在セシムルコトシタリ然ルニ此事變ニ關シ一毫ノ縁モナキ支那政府ハ忽然大兵ヲ朝鮮ニ派シ其將士ヲシテ國内ノ政事ニ干與セシメ京城ヲ鎭守スルト稱シテ永ク駐兵スルノ用意ヲ爲シ城内數箇所ニ陣營ヲ設ケテ日本兵營ト對峙スル其有様ハ應仁ノ昔山名細川ノ兩黨ガ京都ノ街ニ壘ヲ對シテ戰ヲ挑ミシ事ナドヲモ思ヒ出サシテ凄マシク最初ハ朝鮮ノ暴兵暴民ヲ防禦スル爲メノ日本兵モ今ハ專ロ支那兵ノ乱暴ニ備フルガ如キ觀ヲ呈シ世人ヲシテ朝鮮人ノ愚蒙ヲ憂ヘズシテ轉タ支那兵ノ乱暴ヲ恐レ一日支那日本兩兵ノ間ニ衝突ノ沙汰アルベキカト疑懼セシメタリ然ルニ果セル哉去年十二月上旬朝鮮政府更迭ノ騷擾ニ際シ支那ノ將官等ハ大兵ヲ率ヒテ王闕ニ迫リ守護ノ我日本兵ヲ砲撃スルト同時ニ令ヲ一般ノ支那人ニ傳ヘテ男女老幼ノ別ナク一切ノ日本人ヲ屠殺セシメタリコレガ爲メニ今回ノ朝鮮事變タル朝鮮ニ對シテ我日本ノ害辱ヲ回復スベキモノ固ヨリ甚ダ大ナリト雖ドモ其重モナル部分ハ朝鮮ニ屬セズシテ支那ニ屬シ朝鮮事變即チ日支事變ナリト異相ヲ現ハシタリ故ニ本年一月井上全權大使ガ京城ニテ取結ビタル日韓ノ新條約ニ由リ朝鮮政府ヲシテ謝罪使ヲ送ラシメ罪人二名ヲ刑セシメ償金十三萬圓ヲ拂ハシメテ我害辱ノ一部分ハ既ニコレヲ拭ヒ得タリト雖ドモ尚ホ他ニ其大部分ノ殘留スルアリテ事ノ結局ニ至ラズ是ニ於テカ我政府ハ更ニ伊藤全權大使ヲ派シテ北京ニ抵ラシメ去年ノ朝鮮事變ニ關シテ目下正サニ日本支那兩國間ノ談判ニ取掛ラシメタリ

斯ノ如ク去年朝鮮ノ事變ニ關シ日本ノ全權大使ハ今正サニ支那ニ抵リテ事ノ始末ヲ談セントスルノ時ニ當リ顧ミテ朝鮮國内ノ事情ヲ察スルニ甚ダ不穩ノ形勢アリ第一去年變乱ノ首謀者實働者タル支那兵ハ依然トシテ京城内ニ駐屯シ變乱以前世人ヲシテ應仁ノ故事ヲモ思ヒ出サシメ日韓人ノ間ニアラズシテ日支人ノ間ニ不慮ノ變事アランコヲ疑懼セシメタル原因ハ今日一モ除却シタルモノアルコナシ嚢キノ呉兆有張光前等ヲシテ又例ノ如ク日本人屠殺ノ令ヲ下サシメ例ノ如ク其手下ノ兵ヲ率ヒテ日本兵ヲ襲フコモアラシメバ去年ノ變乱ヲ再ビ今年ニ見ルコ難キニアラズ實ニ京城ノ治安ハ石ヲ抱キテ深淵ノ薄氷ヲ履ムニ異ナラザルナリ支那兵ニシテ依然京城ニ駐屯スル既ニ已ニ甚ダ危險ナリ然ルニ今又第二ノ乱兆ノ發生シタルアリト云フハ朝鮮人ガ支那兵ニ對シテ抗敵セントスルノ萌アルコ是ナリ本日ノ朝鮮事變欄内井上角五郎君ヨリノ通信ニモ見ユル如ク本月二日仁川着ノ小菅丸便ニテ伊藤全權大使支那ニ派遣ノ報知京城ニ達スルヤ否ヤ朝鮮上下ノ人心忽チニ騷ギ立チ今ニモアレ京城駐在日支兩國兵ノ間ニ戰爭ノ始マル如クニ言觸ラシ中ニハ豫メ乱ヲ避クルノ意カ既ニ老人小供ヲ城外ニ送出ス者モアル程ニテ人心ノ洶々ハ日ニ益甚ダシキ折柄現政府事大黨中ニテ第一ニ指ヲ屈セラル、閔泳翊ガ自家護衛ノ事ニ關シ何カ支那兵ノ士官ト爭論ヲ起シ彼是混雜ノ際其家僕ガ過チテ支那兵ヲ銃撃シタルヨリ更ニ又爭論騷擾ノ態度ヲ進メ閔氏ハ微服シテ京城ヲ立去ラントスル時支那兵ニ見出サレテコレニ護衛セラレ人民ハ支那兵ノ所置ヲ憤リテ抵抗ノ色ヲ現ハシタルヲ見テ支那兵ハ四方ノ城門ヲ警固シ又ハ嚴重ニ巡邏スル等相互ニ敵ノ圍中ニ在ルノ想ヲ爲シ獨リ支那人ト朝鮮人トノミナラズ内外人一般ニ日夜不安ノ情アリトノ事ナリ斯ノ如キ状況ニシテ數月連續スルコアランニハ何時何様ノ行違ヒニテ朝鮮人ト支那人トノ間ニ變事起リ其兵延イテ在京城仁川等ノ我日本人ニマデ及ブコナキヲ期スベカラザルナリ

今ヤ伊藤大使ハ清廷ノ全權大臣李鴻章ト北京或ハ天津ニ會シテ去年ノ朝鮮事變ニ關シ前ヲ議シ後ヲ善クスルノ談判ヲ開カントセリ此談判ハ如何ニ捗取リ如何ニ結局ニ至ルベキヤ我輩ノ知ル所ニアラズト雖ドモ兎ニ角ニ我輩ノ心頭ニ懸カルモノハ彼ノ京城ノ支那兵ナリ支那兵ガ例ノ如ク日本人ニ對シテ手ヲ下スモ又ハ朝鮮人ニ對シテ乱暴ヲ働クモ或ハ朝鮮人ガ支那兵ニ對シテ攻撃ヲ試ムルモ總テ皆朝鮮ノ大騒乱ニ終ラザルヲ得ズ何卒我大使ハ一日モ速カニ日支ノ談判ヲ結了シ早ク支那兵ヲ歸國セシメテ禍根ヲ其未ダ再生セザルニ斷絶センコト我輩ノ希望ニ堪エザル所ナリ

雜報

○○○○○○○○○○○

○清國駐在英國公使ハ死去　上海在留本社特派通信員本多孫四郎氏より英國公使パアクス君死去したりとの電報一昨夜本社に到着しゝれど事の餘りに突然なるが爲め少しく疑を存して昨日の本紙上に掲載し置きしに又本社特派通信員渡邊治氏より天津發にて昨朝左の電報を得たり

三月二十二日午後五時三十分天津發

英國公使ばあくす君ハ今朝死去せり

我輩ハ右の電報に接して疑團氷解パアクス公使の果しく死去したると確知するを得たりパアクス君は四十餘年來日支間及び暹羅の間にて外交の事に執掌し現に支韓兼任の英國全權公使たりしと以て君の一身東洋の外交に關そると輕少ならず特に目下佛清事件あり日清談判ある其際に突然にも此凶音ありたるハ我輩の驚愕悲哀に堪へざる所あり因て今我輩の聞き得たる所に據てパアクス公使の略履歴を左に掲く

清國朝鮮兼駐英國特命全權公使パアクス君の履歴

ハリー　スミス　パアクス君ハ千八百四十一年六月ボッチンガル氏の隨員と爲りて始めて清國に來り同四十五年より六年の間福州にて譯官と勤め四十六年より同八年まで上海の譯官と代理し四十八年四月十九日上海の譯官に任じ四十九年更に廈門の譯官に遷り五十一年清民に賞與と頒つが爲め台灣派遣と命ぜらるを同年十一月二十一日廣東の譯官に任じ五十四年八月十日廈門の領事に任じ五十五年三月ボーリング氏に隨行して暹羅に赴き該國の條約と携帶して英國に歸り五十六年一月其條約の批准を齎らして暹羅に到り其年の七月より五十八年九月まで廣東の代理領事と勤め同年十二月廿一日上海の代理領事に轉任し同年一月廣東の共同委員會議には英國の委員と爲れり五十九年十二月六日コムパニオン　オフ　ゼ　バスに敘せられ特派全權大使エルギン卿に隨行して其書記官と爲り六十年黄河事件の際屢々要衝に當りその八月廿三日副水師提督ホープ氏に隨ひ天津に赴き又清國が英佛と搆戰せる際兩國の談判に周旋奔走して其功績少なからず九月十八日清人の爲めに擒にせられ殆ど死地に陷り具さに艱苦を嘗めたりしが十月八日赦されて再びエルギン卿に隨行し六十一年一月卿は英清の和成るを以て清國を去り氏も亦廣東の任所に歸り更に水師提督ヒュームス　ホープ氏に隨行して揚子江の遠征に赴き六十二年五月十九日ナイト　コンマンダア　オフ　ゼ　バスに敘せられ六十五年三月廿八日日本駐在英國特命全權公使兼總領事に任じ爾來日本に

在勤して事は夕
五月三日トーマ
國駐在英國特命
四千磅ありしに
給せらるゝことゝ
六日朝鮮政府と交
國公使と兼任す
に千八百八十五
五十七

○ビスマーク公の
スマーク公の第七
宴と張るよし又
贈物と爲すに決し

○尾崎讀官　農に
取調局御用掛尾崎

○露國公使れ夜會
我大臣參議と始め
して夜會を開きれ
京坂地方へ赴くし

○出發　福岡縣下
長阿武大佐、參謀
昨廿二日出發なし

○轉任の噂　橋本
醫總監ふ何れも近

○再出張　土木局
川の工事監督とし
りしが兩三日の内

○貿易事務官　前
寺見機一氏は一昨
本日出發のよし

○ミーケル氏　同
へ出頭し官吏及諸
教師よ雇はれ來朝
り同氏の月俸ハ五

○醫術開業試驗委
名は去る十九日内

（各通）

明治十八年第一

（各通）

明治十八年第一

（各通）

明治十八年第一

○海軍省　有地海
官教育掛取調委員
大機關士ハ本職と兼